

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 肇 発行所/名古屋園芸株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東横2-18-13 tel. 052-631-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

1912

名古屋園芸

特別な年明けを彩る



寛永八年(一六三二)池坊専好(二代)が近衛園白殿の屋敷でいけた水仙一式の花型図。下方の朱赤の花はキンセンカと見ましたがどうでしょう。 亮軒記



池坊立華「水仙一式」の図 / 「関東献上立花五十瓶図」より



世界ふれあい
花歩き

ニュージーランド編

北島の大都市 オークランドの植物園

小笠原 肇



ニュージーランドの特産種 カカビーク

前号のクライストチャーチ植物園に続き、今回はニュージーランド北島にある同国最大の都市オークランドの植物園を紹介します。

オークランドは、南北は逆になりますが金沢市とはほぼ同緯度にあたります。しかし冬は最も寒くなる7月の平均最低気温でも8℃程度、夏の平均最高気温は25℃程度で比較的涼しく、温暖湿潤気候になります。いわゆる猛暑期がなく、冬も氷点下になることが少ないので、原産の植物のみならず日本の植物もよく育ち、花も日本以上?に咲きます。

クライストチャーチでは見かけなかったヤシ類の植栽が増え、サクラはまだ少し早くウメが満開です。緯度がクライストチャーチよりも低いわりに春の花の開花は遅い気がします。



日本にも輸入されるプロテア(南アフリカ原産)

オークランド植物園

Auckland Botanic Gardens

10000種以上の植物が23区画に分けられています。原産の植物、比較的气候に近い南アフリカの植物、かつてあったゴンドワナ大陸の植物、日本や東アジア原産のツバキ、モクレンの庭、



テロペア(オーストラリア原産)

ハーブや宿根草ガーデン、バラやサルビア、ヤシの庭園、都市に植える植物の庭、子供が楽しめる庭など、どれも見てみたくなる工夫がされています。

植物園の入り口には、ちらちらと咲きかけたフジのアーケードが私たちを迎えてくれました。日本では藤棚仕立てが多いのですが、海外ではアーチや壁面に這わせる仕立て方をよくみかけます。



植物園入り口のフジのアーチの外壁

どの区画も面白いのですが、特に南アフリカ植物区画では、エキゾチックな植物をたくさん見ることができます。アロエ属・南ア原産の球根植物もたくさんあり、ガゼニアはとてつもなく花が大きく咲き、クンシランも満開です。訪問時の気温は15℃くらいでしたが風がないので寒さは感じられません。

*ニュージーランドの特産植物

カカビーク *Clanthus puniceus*

赤い花が房状に連なり、カカと呼ばれるニュージーランドのオウムのくちばしに見立てたマ



アフリカ・ガーデンのストレリチア(手前)とアロエ(奥)



オークランド・ドメイン内のウィンターガーデン

メ科の植物です。種子の寿命が30年くらいあり、豆(種子)を包むさやが衝撃で裂けたときに発芽するそうです。一斉に発芽して不利な環境で全滅してしまうリスクを避ける戦略です。種の保存のための知恵なのでしょう。マオリ族の髪飾りでも使われているようです。

街中心部に位置する美しい公園

オークランド・ドメイン Auckland Domain

最寄りのParnell駅で下車、改札のすぐ先に山道のような細い道が一本あるだけ。それでも徒歩10分のサインがあるので半信半疑しばらく歩くといきなり視界が広がり、広大な芝生の丘の上にオークランド戦争博物館の白い建物が現れました。オークランドで最も古い公園です。その中にあるウィンターガーデンは、おしゃれな外観の温室内には熱帯花木やシダ類が展示され、中庭にはスイレン、ダリアが植栽されています。



ニュージーランド原産のプアーナイトリリー



巨大な歯ブラシのようなプアーナイトリリーの花

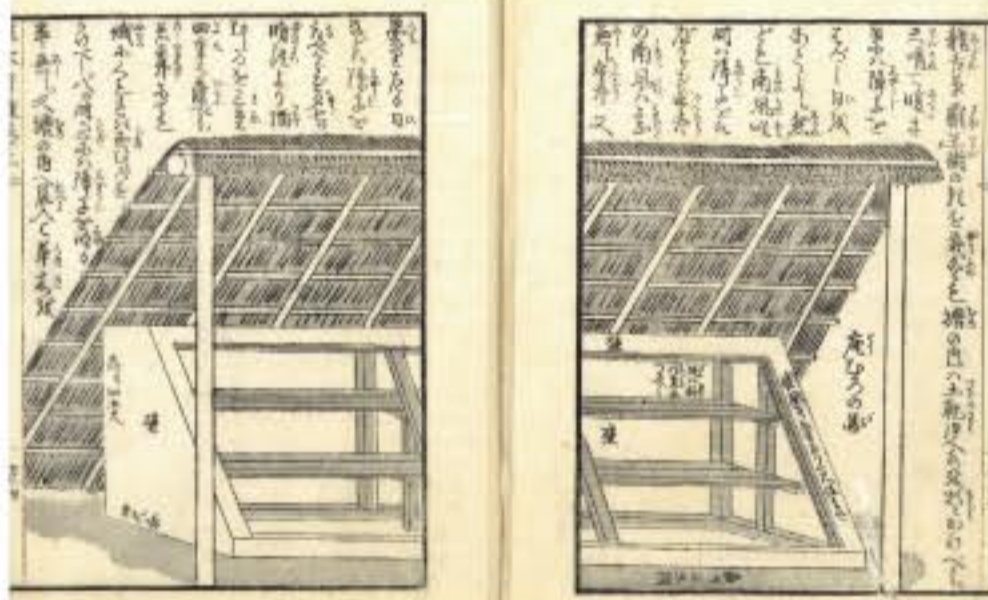
さらに目を引いたのは巨大な歯ブラシを連想するプアーナイトリリー(PoorNightLily *Xerozema callistemon*)です。発見されたニュージーランドのプアーナイト諸島に由来し、さらに島名の由来はパンペースの料理であるプアーナイトブディングと形が似ているため命名されたそうです。この島に有の植物です。callistemonとは「美しい雄しべがある」を意味し文字通り赤い雄しべが歯ブラシ状に並んでいます。長さは25cmくらいありました。その土地の固有種に選り合えることは園芸屋にとっては格別にうれしいことです。

information

縁起物コレクション

万両・千両・百両・十両展
12/7(土)~2020/1/5(日)

本文にて「令和の縁起物」として梅や令和カラーのアレンジメントをご紹介しましたが、古来から縁起物として親しまれてきた百両(カラタチバナ)を中心に、万両(ヤブタチバナ)、千両(クササング)、十両(ヤブコウジ)の展示も始まり、店内はおめでたい迎春の雰囲気になって参ります。珍しく貴重な品種も揃い、気に入った植物はその場で買い求め頂けます。皆様の幸多き春迎えのご準備に、ぜひお立ち寄りくださいませ。



* は図中に書かれている文章です。

花の博物館 第287回

草木育種

二冊

岩崎園芸著
文化十五年(一八一八) 勝村治右衛門他刊
小笠原左衛門耐亮軒

とうとう 諸君められたれ事並に図 披に本邦の北国寒地などへ、天然安南等の暖国の草木を植るには冬の手当専らなり。冬は皆南むろに入置べし、その南むろの建物は、北窓で南あきたる地は適よし、南に陰なく朝日より夕日までよくあたる所へ建べし。形は図の如く建ると同じ。土(壁)は厚きほどよし、南の方皆障子なり。九月頃にも寒風来れば扶桑花、山丹花、使君子の類は早く霜の内へ入障子をかけ置、立冬の頃十月中旬より嶺南琉球等の暖国より来る草花は皆入べし。其内日蔭を好物は奥へ入前には「竜舌草(あだん) 覇王樹(さばてん) の類を置、冬も暑の内には土乾巾へ水を折々かけべし。天晴て暖き日には障子をはずし日をあててよし。然れども南風吹時は障子を取べからず。寒中の南風は甚悪し。寒中又曇りたる日などは障子を取べからず。夕七ツ時(午後四時)頃より酒むしろ(厚手のむしろ)三重四重も覆べし。若屋中にも俄にくもれば直むしろをかかけべし。八ツ時(午後二時)過ぎには障子を明る事悪し。又暑の内へ風入て草木を「食ふあり。其時は針か松へ小鈴を付けて置ば風入る事なしと云う。暑の家根(屋根)は茅にても杉皮にても葺べし。春の彼岸頃より丈夫なるものを先へ出し、追々出すべし。唐物類は清明の頃には皆出してよし。